

Q&A 先月の技術相談から

道産建築用材の自給率（2015年度における推計結果）

Q1：道産建築用材の自給率はどのくらいですか？最新のデータを教えて下さい。

A1：既報（林産試だより2012年10月号）にて2010年度における自給率を推計しています。今回、新たに2015年度における自給率を推計しましたのでご報告します。

建築用材は、製材、集成材、合板の3種類の製品を対象とし、製品材積の需要量ベースで道産材自給率を（1）式に基づき推計しました。なお、出荷量や輸移入量を需要量として分析しています。

$$\text{北海道における建築用材の道産材自給率 (\%)} = \frac{A}{A+B+C+D} \times 100 \quad (1)$$

ここで、

A：道産製品；道産原料による製品の道内出荷量(m³)

B：準道産製品；輸入原料による製品の道内出荷量(m³)

C：輸入製品；製品の道内輸入量(m³)

D：移入製品；製品の道内移入量(m³)

算出のための各値は統計資料・業務資料から入手し、一部は単位換算を行って使用しています。また、不足するデータは製造メーカーへのヒアリングなどで補っています。算出方法の詳細については、既報をご覧ください。

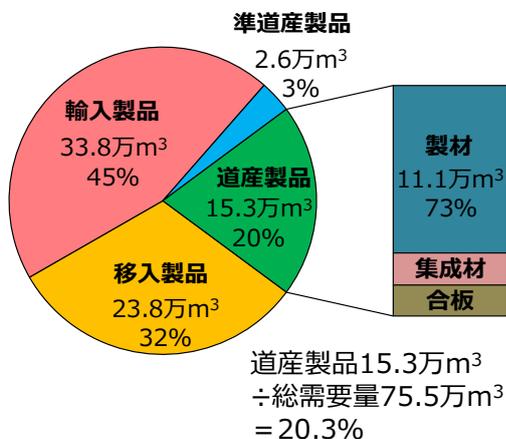


図1 道産建築用材に占める産地別需要量

2015年度の道産建築用材に占める産地別需要量を図1に示しました。建築用材の総需要量は、75.5万m³と推計されました。このうち道産原料による製品の道内出荷量は15.3万m³であり、建築用材の道産材自給率は20.3%と算出されました。2010年度と比較すると、総需要量は3.8万m³低下しており、道産材自給率は1.4ポイントと僅かですが低下していました。

製品別の需要量を図2に示しました。製材は49.0万m³、集成材は24.3万m³、合板は2.2万m³と推計されました。2010年度に6.2万m³であった合板の需要量は65%も減少していました。その他、製材需要量は3万m³の減少（6%減）、集成材需要量は3.3万m³増加（16%増）していました。各製品の道産材自給率は、製材が22.7%、集成材が8.8%、合板が93.6%と算出され、供給源別割合は、製材では輸入製品が、集成材では移入製品が大きな割合を占めていることが分かります。道産材のシェアは、製材が1.6ポイント増加した一方で、集成材は2.6ポイント減少していました。

現在、国土交通省ブランド化事業、グリーン化事業で建築された住宅の積算書からも別途道産材自給率の算出を行っています。その結果についてはまたご報告したいと思います。

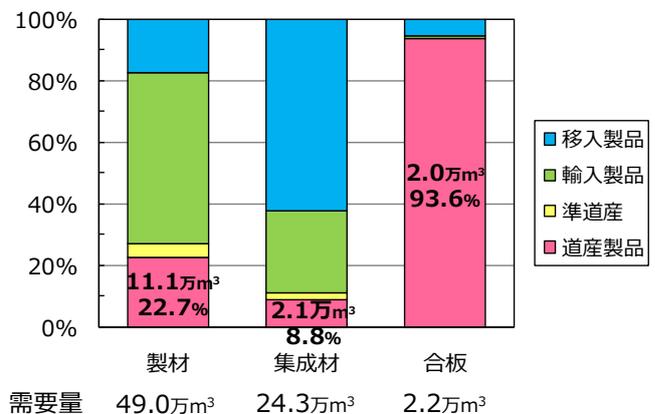


図2 各製品の需要量と産地別材積の割合

(利用部 資源・システムグループ 古俣 寛隆)